

公共政策プログラム

プログラムの目的

公共政策プログラムは、政策分析力、政策構想力を磨き、政策研究の最先端と実務の世界の架け橋となる人材を育成します。

ディプロマポリシー

公共政策プログラムでは、所定の年限以上在学して、教員の指導の下でプログラムのカリキュラムに基づき、所定の単位数以上を修得するとともに、特定の課題に関する研究論文を執筆・発表し、合格判定を受けた方に、修士(政策研究)・修士(文化政策)・修士(開発政策)・修士(防災政策)のいずれかの学位を授与します。また各コースが指定する科目にかかる単位を取得し、当該コースに関連する特定の課題についての研究成果の審査に合格した場合には、コース修了証書を授与します。

各コースで学生が身に着けるべき資質・能力の目標は各コースのページを参照ください。

カリキュラムポリシー

基本方針

公共政策プログラムは、このプログラムで学んだ学生が、公共政策の現場において、その能力を最大限発揮できるよう、問題分析能力と政策構想能力を修得するためのトレーニングを中心としたカリキュラムを組んでいます。多様な政策領域に共通する基礎的な科目に加えて、政策課題・分野別の「コース」を設置しており、様々な分野にわたる専門的な科目を提供しています。

カリキュラムの構成

学生は入学時に受けるプログラムガイダンス等を通して、1年間の履修計画を立て、入学後半年間で政策研究の基礎となる科目を集中的に履修します。カリキュラムは、グローバルな視野と教養を身に着けるための科目等からなる必修科目、公共政策に係る基本的な分野やデータ分析の手法等を学ぶための選択必修科目及び公共政策に関する幅広い内容と特定分野における専門知識について学ぶことができる選択科目

から構成されます。

後半の半年間では、自ら設定した研究課題 に関する論文を作成し、政策提言を行います。論文作成の過程では、指導教員による指導が行われ、問題分析能力や政策構想能力を高めることができます。また、場合によっては、海外における研修と組み合わせるなど、目的に応じた履修形態をとることができます。さらに、修士課程において、特定課題をより深く研究することを希望する学生には、2年間の在籍を前提に、フィールド・リサーチを必要とする修士論文の執筆を求めるなど、ニーズに応じた多様な履修形態を可能としています。

(必修科目)

必修科目は、21世紀の世界システムの現状の把握と SDGs についての分析・検討を通じてグローバルな視野と教養を身に着けるための科目、及び各学生が自らの関心のある課題に関して政策の企画立案・戦略を構想し実践的な政策提言をまとめるための演習科目から構成されています。

(選択必修科目)

選択必修科目として、学生は経済学や行政学、行政法、データの数理的分析等、公共政策に係る基本的な分野や分析手法等について学びます。

(選択科目)

学生は公共政策に関する幅広い内容に関する科目を提供しています。選択科目のうち5科目はコース指定科目となっており、学生はそれぞれの専攻分野に関する専門的知識・技能を習得します。コース指定科目については各コースをご参照ください。

教育・学修方法にかかる方針

本プログラムでは、修了に必要な 30 単位のうち、少なくとも4単位が演習科目となっています。演習では、担当教員とのディスカッションを通じて、学生が選択する分野における政策課題についての知識や理解を深めていくこととしています。また、講義科目においても、受け身で知識を得るだけでなく、積極的に講義におけるディスカッションに参加することにより理解を深め、学びの質を高めることを目指しています。

成績評価

成績評価は各科目において、出席・授業への貢献度・試験・レポート提出等を考慮した上で、知識の習得・理解及び実践的なスキルを原則として相対的に評価し、併せて特定の政策課題に関する論文の執筆を通して、総合的な能力を評価します。

アドミッションポリシー

求める学生像

中央省庁や地方自治体、民間企業等の幹部候補職員、政策に関わる研究者を志望する者、公共政策に対する問題意識が明確で、将来公共政策に携わることを希望する者が主な対象です。詳細は各コースをご参照ください。

審査方法及び審査基準

各コースをご参照ください。